不定期刊行　　第599号　2017.01.11

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

登山者よ、自立せよ

昨年は、一方で新たに制定された山の日に湧きながら、遭難も一向に減らず、由々しき事態ともいえる一年だった。そんな実情に対して、岐阜県に端を発した登山届の提出義務化という行政の行き過ぎた対応が全国的に広がりつつあることは、ある意味残念な事態と言わざるを得ない。この議論がはじまった同じ年に発生した御嶽噴火の際に、登山者の実態把握に手間取ったこととも相俟って、長野県でも議論が活発化、昨年から登山届の提出義務化を含む「長野県登山安全条例」が施行された。

この条例の法整備にあたっては、県の当事者との間で、登山者の代表として長野県山岳協会は事前に何度も議論を重ねた。その中で、山岳協会としては、本来登山は自由であるべきで、届け出の義務化や強制はなじまないということを主張し、その点は県には理解していただけた。同時に自己責任の範疇でこれまでも登山者の常識として、登山届は出して当然のものであるという認識の下、最終的な落としどころとして、義務化に伴う条例違反に対しても、罰則は伴わないことやこの条例そのものが県のやるべき義務を明示したものであり、決して登山者を縛るものではないということを確約した長野方式であるということを確認された。一方で、条例の有る無しにかかわらず、登山者の常識としてしなければならないことがある。それは、計画書の立案と届け出、保険への加入であるということも共通の認識であった。

施行から1年になるのを前に、心ならずもこの制度に関わったものの一人として、私は、一般の登山者にもこのことはしっかり理解していただきたいと改めて思う。世の中では届けを出すことのみが喧伝されているが、私はそれ以前の問題として、登山者として、計画書を立てることの重要性を理解してほしいと思う。自分がどんな山に行くのか、自分はその山に行くに足る技術や体力を満たしているのか、自分の行く山にはどんなリスクの可能性があるのか、ピンチに陥った時にどのように対応するのか、そのためにはどんな装備や食料が必要なのか・・・。計画書を自分で立てるということはそういうことである。そのことにまで、行政に踏み込まれなければならないというのは、なんとも残念なことである。

現在43000人の読者を持つというＷＥＢでの情報誌『週刊ヤマケイ』の編集長久保田賢次氏は新年最初の号で、「近年、私たちを取り巻く環境を見ますと、残念ながら自助、共助、公助のなかでも、公（おおやけ）に頼ってしまう傾向になりがちではないでしょうか。登山条例の制定、計画書届出の義務化など、本来なら、山を愛し山に登らせてもらう私たち自身の責務として常識的なことにまで、行政が踏み込まざるを得ない状況は続いています。昨年より、ヤマケイ登山総合研究所が刊行を開始しました『登山白書』にも、識者の方々のご意見を掲載しておりますが、自然に親しみ、山の恩恵を受ける私たちこそが、自立した考えのもとで行動していくような流れが望まれます。今こそ『登山者の矜持』を取り戻そうではありませんか。」と述べている。失われた『登山者の矜持』、まさに我が意を得たりである。

また、静岡大学の村越真氏は、昨秋行われた日本山岳文化学会の招請講演の中で、冒

頭「最近腹がたって仕方がないことがあります。登山届の罰則の実質化です。御嶽山の噴火によって登山のリスクが顕在化されると同時に、捜索活動が難航していた時だけに、義務化までは仕方ないと思っていました。12 歳以下の子どもが自転車に乗るときのヘルメット着用同様、この手の義務は基本的に「努力義務」の範囲でしょう。だが、過料によって義務が実質的なものになるというのでは、黙っていられません。過度な圧力は矛盾も露呈させてしまいます。もちろん、山岳救助に関わる人たちが文字通り命がけで救助に当たっている一方で、安易な救助要請をする登山者も少なくない現状の中で、行政がそれこそ藁にもすがる思い（これは比喩ですが、行政が期待する効用は実際にはほとんど期待できないという意味で、かなり実質的な比喩だと思います）で、このような条例を成立させたことには、反対ではあるが理解はできます。そのように自分の怒りを内省すると、自分が腹を立てたのは行政に対してではなく、山岳関係者から、反対の声がほとんど上がってこない点にこそある、と気づきました。」と述べられているが、これもまた私としては、全く同感なのだ。

山登りの大衆化の中で、本来自己責任で行うべき部分を他から強制されるということには、どんな理由をつけてももう一つ納得がいかない。そのために我々に求められているのは、改めて「登山者として自立すること」言い換えれば、「自分でリスクを読め、そのリスクへ対処のできる登山者となること」だろう。登山者の矜持を取り戻すべく、登山者よ！自立せよ。（自戒を込めて）

20170007石鎚山晴れのち曇り・・・藤原昭宏先生寄稿①

20170107　石鎚山　晴れのち曇り　気温（山頂－２℃：午後 12 時頃）

06:00　松山：自宅発　高速　東温：川内 IC～伊予小松 IC 利用。07:35　西之川京屋駐車場(400m)700 円。07:45　石鎚ロープウェイ山麓下谷駅(430m)　５分前より案内改札：往復券 1950 円。08:00　石鎚ロープウェイ　発車　平日 08:40 始発　スキー教室開催日 08:00 始発　乗車満員！08:20　石鎚ロープウェイ山頂成就駅(1280m)　気温－３℃　外のベンチにてアイゼン装着。アイゼンはゴムバンド式の簡易型　道は完全にアイスバーン　溶けては固まる状態でつるつる。08:35　歩き始めるが景色に雪はほとんど無く、樹氷も見えない。明日からは雨の予報である。08:55　成就社(1400m)にて参拝。石鎚が見えるが岩肌が黒い。気温－１℃。09:00　門をくぐって下りとなる。南面のため、陽に当たる場所には雪（氷）が無い。09:20　八丁のコル(1300m)体温調整のため上衣を２枚にする。無風である。気温０℃。急な上りになる手前で、次のロープウェイで来た２人に追い越される。10:00　前社ヶ森(1589m)の肩にある休憩所(1570m)にて水分補給。空は快晴、気温０℃。不正確。少し風はあるが寒さはない。手袋は薄い（ゴルフ用）ままま。10:20 夜明し峠(1650m)ほとんど無風で、陽向は快適である。（続く）

20170107　夜明し峠より石鎚北壁

20130209　夜明し峠より石鎚北壁